

あのね、保育の根 No.5

～ふくえんちょうのおたより編～ 8月



まずは、わたしの小言から…。

前月の園長のおたよりを読み、さすが大学の特任講師だけあって理論に基づいた内容でしたね。園長の後はとっても書きづらい…。わたしは小心者ながらに、一般の目線で皆さんと共感できたらと思います。

先月、我が息子の登園渋りの話をしましたが、ようやく泣くこともなくなり登園できるようになりました。息子を支えてくれた周りのおとなや子ども達に感謝です。これも小さな成長と捉えとても嬉しく思います。

今回は「こどもの成長とおとなの葛藤」に視点をあててお話させていただければと思います。

～こどもの成長とおとなの葛藤～

我が家では、たまにこんなことがあります。わたしが家に帰ると「パパ～」と泣き叫ぶ息子、何があったかと家の様子を見てみるとママが怒っている…。どっちの味方にもなりづらい状況…。とりあえず息子の話に耳を傾けてみると、息子の「ママが言うこともわかるけど、それでも僕は」という思い、ママの「わかってる。でもママの話も聞いてほしい」というそれぞれの思いのすれ違い。わたし自身が第三者だからこそ冷静でいられているだけで、ママにとっては「ご飯作って、食べさせて、お風呂に入れて」という時間に追われ「ゆとり」がない時間。(原因はわたしが仕事に追われ帰りが遅いからなのですが…申し訳ない。)今回も我が家の事例でお恥ずかしい限りですが、こんな経験がある人も少なからずいるのではないのでしょうか。

息子の姿だけを切り取ってみれば、「自分の気持ちなんか言葉で伝えようとする姿」に**こどもの成長**を感じ、ママの思いを考えれば「本当はあなたの気持ちを理解しているけれど、時間が足りない」という日々のおとなの葛藤、それぞれの思いが見えてきます。しかし、思っているだけでは相手には伝わらないのが現実で、子どもにとっては「なんでわかってくれないの？」とうまく言葉にできないもどかしい気持ちに…、でも実際はおとなにとっても同じですよ。

～互いにとっての心地よい時間を目指して～

おとなの行動の背景に理由があるように、こどもの言動にも理由があります。おとなの思いだけでこどもの行動を変えようとしたくなることもあるかもしれませんが、そんな時は一度立ち止まってこどもの思いを考えてみるのが大切です。子どもの思いに気づいてあげることができれば、おとなの関わりも自然と変わってくるのかと思います。また、こどもの言動には「どうしていいかわからない」「助けてほしい」という心の叫びもあります。そんな時は、こどもと一緒に言動に起こし悩むのが大切です。おとなの寄り添う行動が、こどもにとっては、自分のことを「考えてくれる」「わかってくれる」といった安心感に繋がります。こども自身が「わからないこと」が「わかった」ときは、おとなにとっても「良かった」とほっとする安心感に繋がるのではないのでしょうか。

おとな自身の行動を変えることは決して容易なことではありません。わたし自身も心にゆとりがなく自分の思いだけをぶつけてしまい、息子の姿を見て後悔するといった経験はあります。書かせていただいたことは理想かもしれませんが、おとなが見方や行動を変えることで、こどもが安心できる時間が増えれば、お互いにとって**心地よい時間**が増えることに繋がるのではないのでしょうか。

～魔法の言葉～

さあ世の中では、それぞれの家庭において夏休みというものが始まります。普段とは少し異なった生活、もちろん世論では「毎日、早寝早起きしましょう」とも言われていますが、こどもにとってはママやパパと過ごせる特別な時間。「まだ眠くない！」なんてこともあるかもしれません。きっと「まだ眠くない」という言葉の中には、「もうちょっと、ママとパパといたいんだ」という本当の理由があるのではないかと思います。そんなときは、**魔法の言葉「まあいっか♪」**です。おとなはごく自然と使っていると思いますが、おとなだけ…はちょっとずるいですよね(笑)。こどもにおすそ分けすることで**おとなの葛藤**にちょっとした休暇を作りましょう。いつもより10分でも5分でも長くこどもと向き合う時間を作ることで、日常では気づけないちょっとした**こどもの成長**に出会い、**おとなの葛藤**がきっと**おとなの喜び**に変わることを願っています。

～おしまい～